



心 友

№ 17

令和8年1月19日（月）発行

四万十市立中村西中学校

文責（校長）小野川 憲

3学期がスタートしました～令和8年(2026)年が皆さんにとって充実した1年になりますように！～

新年、明けましておめでとうございます。みなさんは、穏やかな新年を迎えたことと思います。今年も宜しくお願いいいたします。少し時間は経ちましたが、いよいよ3学期がスタートしました。3学期は、1年のまとめであると同時に、次のステージへとつながる「節目の学期」です。1・2年生にとっては、これまで積み重ねてきた学びや経験を土台に、次の学年へと進む大切な時期。そして3年生にとっては、義務教育9年間の集大成として、自分自身の進路や生き方と真正面から向き合う時期となります。



昨年の4月から皆さんは、授業、学校行事、部活動、そして日々の学校生活の中で、多くの壁にぶつかりながらも、友だち（仲間）とともに前に進んできました。色々なことに悩みながらも、前向きに挑戦し、一人一人が確かな成長を遂げてきました。3学期は決して長い学期ではありません。だからこそ、1日1日を大切に、「今の自分にできる最善」を積み重ねて欲しいと思います。

「分からないことをそのままにしない」「最後までやり抜く」「仲間に感謝の気持ちを伝える」

こうした小さな積み重ねが、自信となり、次の自分をつくっていきます。頑張りましょう！

保護者・地域の皆様におかれましても、本年も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。子どもたちが安心して挑戦し、失敗から学び、前に進めるよう、学校として全力でサポートしていきます。令和8年（2026年）が、生徒一人一人にとって「自分の成長を実感できる一年」となるよう、教職員一同、一丸となって取り組んでまいります。本年もよろしくお願い致します。

2026年は「午（うま）年」

午年は、十二支の中でも「前進」「成長」「活力」を象徴する年と言われています。

生徒のみなさん一人一人にとって、「一歩踏み出す勇気をもつ年」「仲間とともに成長を実感する年」そして「自分の可能性を広げる年」となることを願っています。

《3学期は「日々の授業を大切にす！」ことをこれまで以上に意識してください！》

このことは、1学期から伝えていることですが、もう一度日々の授業について考えてほしいと思います。私も授業を見に行きますが、皆さんの授業態度が気になるから伝えたいのではありません。ほとんどの授業でよく頑張っている姿を見ます。授業でしか身に付けることができない力があることをもう一度、確認してほしいのです。



授業は、ただ教科書の内容を覚える時間ではありません。授業の中では、「なぜだろう」と考え、自分の考えを言葉にし、友だちの意見を聞き、違いを認め合いながら学んでいます。こうした経験は、テストの点数だけでなく、社会に出てから必要となる力を確実に育ててくれます。

例えば、「話を聞き、理解する力」「自分の考えを伝える力」「仲間と協力して課題を解決する力」

「失敗しても、もう一度挑戦する力」など、これらはすべて日々の授業の中で身につけていく力です。行事や部活動もみなさんを成長させてくれる大切な場です。しかし、その土台にあるのが授業です。授業に真剣に向き合う姿勢は、努力を続ける力や、自分を高めようとする心につながっていきます。一時間一時間の授業の積み重ねが、3年後、5年後、10年後の自分を支える大きな力になります。



「今日はここが分かった」「昨日より少し考えが深まった」そんな小さな前進を大切にしてください。将来、社会に出たときに、しっかりと自分で考え、行動し、たくましく生きていける力を、日々の授業を通して身に付けてほしいと思います。みなさんの可能性が広がっていくことを期待しています。**自分で考え、判断し、きちんと行動ができる。自律した生徒へ！**

生徒会執行部のテーマ(活動目標)が決まりました！

開花

～君がいないと始まらない～

【活動方針】

- ①挑 戦 ⇒ 「挨拶、苦手に挑戦、友達作り、やってみようという気持ち」
- ②責 任 ⇒ 「自分のしていることが相手から見てどう思うか」
- ③自己愛 ⇒ 「自分のありのままを 受け入れて、相手と仲良くする」

【生徒会執行部のテーマへの思い】

「開花」という言葉には、一人ひとりが自分の良さを発揮し、互いの個性を認め合うこと、そして、つぼみが花開くように、周囲に遠慮せず自分らしさを出して、みんなで楽しく過ごしてほしいという思いを込めています。

また、「開花」を達成させるためには、西中の生徒全員が様々なことに挑戦し、みんなで西中を作っていく必要があると思います。 “みんなで作っていく” 私達のこの思いをサブタイトルの「君がいないと始まらない」に込めています。



※具体的な取組は、次のつといで発表されるそうです。新執行部の皆さんの活動に期待しています。頑張れ！

新執行部の皆さんからの挨拶です。

○生徒会長：三保木 心輝

こんにちは！生徒会長になりました。三保木心輝です！

僕は、中村西中学校を楽しくするために執行部に入りました。

これからの一年間、全校レクとかボランティアなどいろいろな活動をして、西中のみんなが楽しいと思えるような学校にしていきたいと思っています！一年間よろしくおねがいします。

○副会長：林 昊季

皆さんこんばんは??僕が生徒会副会長にならせてもらいました、林昊季です。

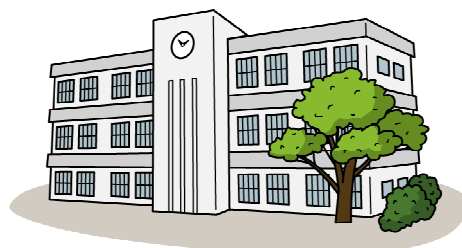
執行部にならせてもらったのでこの学校のために精一杯頑張らせてもらいます。

そしてぼくには熱き熱き思いがあります。もっとみんなが自分の個性を活かし楽しく学校生活を送って行けるような学校作りをしたいと思っています。

そのために自分らしさを出していけるような活動を多くしていきたいと思います。

僕がこの学校を卒業する時に、みんなの記憶に残れるような副会長になって行きます!!

これから1年間よろしくお願いします。



○副会長：原 響輝

僕は副会長になりました。僕は選挙で発言をしていたことを実現できるように頑張っています。自分の良さを活かして学校を元気にしていきたいです。会長を支えられるような副会長になっていきたいです。これからよろしくお願いします。

○書記：植木 萌愛

書記になった植木萌愛です！私は、西中を明るい学校にしたいと思っています。

これから、みんなが楽しいと思えるレクを考えて「生徒会が萌愛でよかった」と言ってもらえるよう全力で開花します！！よろしくお願いします。

○書記：山崎 心結

書記になった山崎心結です。私は、全員に楽しいと思ってもらえるような学校を作っていきたいと思っています。そのために学年の差や男女の差をなくせるようにいろいろなレクを考えていきたいです。意見をまとめたりすることが得意なのでその長所を活かして頑張っていきます！

一年間よろしくお願いします。

○会計：山本 天海

執行部会計になった山本天海です！私は、笑顔があふれて明るい学校にしていきたいです。そして、1つ1つのことを丁寧にしっかり務めていきます。

会計の仕事はもちろん、執行部の一員として中村西中学校がパッと明るくなるような楽しい企画や雰囲気大切にしていきたいです。私の目標である、「学校を明るく笑顔で溢れさせる」という目標を達成できるように頑張ります。チャームポイントは笑顔です！！



～メラビアンの法則～

メラビアンの法則とは、人と人がコミュニケーションを図る際、言語情報が7%、聴覚情報が38%、視覚情報が55%の割合で、相手に影響を与えるという心理学の法則です。

また、「第一印象は出会って3秒で決まる。」という言葉もよく言われます。

今、3年生が面接練習に取り組んでいる姿を見ます。私も何人かの生徒と面接練習をしましたが、各学級で練習していたこともあり、とても好印象をもちました。3年生に限らず、良い第一印象を与えることで、友人関係や他者との信頼関係を築くことができます。

自分自身の態度や振る舞い、服装等の身だしなみ、言葉遣いなどに気を配ることで、好意的な第一印象をもってもらえることができます。

もちろん、相手に興味を持ち、思いやりのある態度をもつことも重要です。



部活動の在り方が変わっていきます。(運動部活動だけでなく文化部活動も含まれます。)

下の新聞は、昨年(12月1日)、県から出された方針案です。昨年末には、国から「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」の策定について通知があったところです。新聞にもあるように、国の通知を受けてからの県の方針は3月に出る予定ですが、新聞にある方針が大きく変わることはないと思われます。

令和10年(2028年)4月からは、原則として、休日の部活動は教員が指導を行わない体制に移行することが示されています。(この4月に入学してくる新1年生が3年生の時に、この体制になります。)

現在、本校でも拠点校方式(野球部・サッカー部・柔道部・男子バレー)を活用したり、地域クラブ(ソフトテニス部)で活動したりする生徒もいます。今後は、四万十市教育委員会と連携を図りながら、部活動の地域展開を進めていくようになります。4月から、学校での募集を停止し、四万十市が認定している地域クラブで活動していただくようになる部活動も出てくることも考えられます。

生徒・保護者・地域の皆様には、部活動の在り方が大きく変わる時期に来ていることをご理解いただき、子どもたちにとって、不利益にならないように地域展開が進むようご協力ください。新しい情報等が入りましたら、お伝えしていきます。

休日部活動教員から地域へ

28年4月めど 県検討会が方針案

公立中学校の部活動の地域連携・地域移行の在り方を検討する検討会が1日、高知市内で開かれた。県の方針案として、休日の部活動は指導員や地域クラブが担う原則として教員が指導を行わない体制に、2028年4月までに移行させることなどが示された。

同会議は、県が23年度に教育長や自治体首長、スポーツ・文化団体の代表者を委員として組織。この日が4回目の会合になる。

国のガイドラインは26年度からの6年間を部活動改革の実行期間と位置づけ、休日の全部活動の地域展開を目指すとしている。

会議では、県教委が7月に行った小中学生と保護者、中学教員へのアンケート結果が報告された。22年のアンケートと比較し、部活動に参加する中学生の割合は前回の78・3%から67・3%に減少。地域クラブに所属する割合は10・7%から16・5%に増加した。

また、部活動指導員負担と感じる教員の割合は73・4%に上り、「休日の活動や大会等」専門的な指導ができない」といった理由が上位を占めた。

これらを踏まえ、方針案では拠点校方式、教員が兼業で指導する方法も示しつつ、28年4月までに指導員や地域クラブが休日の部活動を担う体制を構築。31年度末を目安に、休日は地域クラブに完全移行とする。

委員からは文化、スポーツとも指導者が足りないという意見が上がった。人材がいても、仕事などの時間の兼ね合いで指導が難しいケースもあるという。地域クラブの練習場所の確保なども課題に挙がった。

26年2月に第5回会合を行い、3月に県の方針策定や部活動ガイドライン改訂を予定している。(馬場里)

年の瀬前に街頭で交通安全呼びかけ 高知市

慌ただしさが暮る年末年始の交通安全事故を防ぐこと、高知市交通安全指導員協議会が1日朝、同市内20カ所の交差点で通動、通学する

高知新聞朝刊
(令和7年12月2日)